

令和7年3月吉日

学生ならびに保護者各位

三重看護専門学校
学校長 今野 信太郎
〔公印略〕

学生による授業・臨地実習に関する評価について

平素は、本校の教育のために何かとご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
見出しの通り、学生のみなさんのご協力を得て、令和6年度の教育評価を行いましたので、ご報告します。

1. 目的

- (1) 学生による授業・臨地実習に関する講師（教員）の評価を実施し、その結果を基に講師（教員）が今後の授業の工夫や改善、シラバスの充実など教育の質の向上を図る。
- (2) 学生が授業・臨地実習に関する評価を記入することにより、自身の学習姿勢を振り返り、主体的な授業参加態度を養う。

2. 実施方法

- (1) 授業については、複数回の講義がある科目を対象に実施している。
実習については、2週間以上の病院の実習を対象にしている。
- (2) 評価内容は、学生自身の評価と学生からみた講師（教員）評価を項目化し、5段階評価とする。自由記載を設け、記載者名は無記名とする。
- (3) 評価は、最後の授業時、または実習終了時に5分程度時間をとって記入する。
- (4) 評価表は学生のスマートフォンに配信し、学生が入力する。
集計は第3者（事務）が、集計し結果を出す。
- (5) 評価結果を担当講師（教員）に1か月以内に通知する。
年度末には、全体結果をまとめ、自己点検・評価委員会で報告・検討する。
- (6) 年度末に学生・保護者に結果を報告する。

3. 令和6年度授業評価結果

- (1) 対象となる科目：68科目 講師（教員）数：56名
- (2) 回収率：94.6%
- (3) 授業に対する評価表（資料1参照）
- (4) 実習に対する評価表（資料2参照）
- (5) 授業評価結果（資料3参照）
- (6) 実習評価結果（資料4参照）

4. 総評

学生の授業に対する自己評価は、昨年とほぼ同じ傾向で、「出席状況」は良く、「新しい知識・視点・考え方の習得」につながったという結果になっています。しかしその一方で、「予習・復習など意欲的に学習に取り組む」ことは、全体の自己評価に比較してやや低く、日々の家庭学習が不足していると自覚している学生が一定数いる結果となりました。教員はアドバイスが必要な学生に対して、家庭学習の内容や方法、時間等を確認しながら指導していくことが大切と考えます。

教員に対しての評価は、どの学年も概ね高い評価となっています。

1年生の自由記載では、特に医学系分野で内容が難しくスピードについていけないとされている学生が多くみられました。その反面、単純な暗記ではなく人体のしくみや根拠を理解できた時の喜びも記載されていました。特に、教員が難しい内容をなるべくわかりやすく平易な解説をした時や、丁寧な板書、動画、体験談が多いと理解につながるとしています。そのため、教員は学生が医療・看護の初学者であることを念頭に、今後もこのような丁寧でわかりやすい方法を心がけていきたいと考えます。

2年生は1年生同様、「出席状況」と「新しい知識・視点・考え方の習得」は良いとしていますが、「予習・復習に意欲的に取り組む」ことが弱いと評価しています。教員に対しての自由記載は看護過程に関する複数の科目について多くありました。看護過程は医学系分野と看護系分野を其々に理解したうえで患者個人に必要な看護を考える科目で、これまでの学習の成果と新しい方法論の習得が求められます。そのため、記載が多かったのは、多くの学生が必死に習得しようとしている表れと考えています。多い意見として、教員が見本となる記載例を基に講義したことに対して、非常にわかりやすいとしていました。調べる教材の選定や思考のポイント、順序性等をミクロ、マクロの視点で捉えられるよう、一連の見本は必須であると考えています。見本例の提示は看護過程に関する科目全てで既に行っていますので、これを継続し、講義内外での質疑応答、個々へのアドバイスを充実させ理解につなげていきたいと思えます。

3年生については、実習期間に重なっていない科目については、高い評価であるものの、実習期間中の帰校日に実施した科目についての評価はやや低く出ました。これは、学生が実習の学習で忙しく集中しにくかったと考えられますが、これらの科目は臨地に身を置きながら思考することで学習効果が上がるものであるため、進度の変更は望ましくないと考えています。実習の合間であっても、教員は学生に学習目的を意識できるように声掛けし、一時集中して学ぶように激励していきたいと考えています。

実習については、学生自身の評価は全体的に授業評価より低くなっていますが、その中で比較的高めの評価は「新しい知識・視点・考え方の習得」「誠実な倫理観を意識」という項目であり、最も低い評価は「講義・演習との関連づけた学習」「自分なりに考え、積極的に指導を仰ぐ」、次に低い項目は「積極的・意欲的な取り組み」「自主的な取り組み」でした。これらより、臨地実習ならではの学習で新しい知識や気づきを得られてはいるものの、その環境や生身の患者の状況に戸惑い、学内より萎縮傾向にあることがわかります。教員は学生の置かれている状況をよく理解して、支持的に関わり、主体的な学習を励ましていくこと、また、患者のアセスメントや援助の場面で授業との関連付けができて学びが深まるような示唆をすることが大切と考えます。これまでも関連づけは実際の指導場面や実習要項作成時、事前学習の提示の段階で行っていますが、より一層意識して取り組んでいきたいと考えています。

授業に対する評価表

このアンケートは、授業の質の向上・活性化をはかるため、講師（教員）および学生自身の振り返りを行い、今後の授業運営や学生の学習姿勢に生かすためのものです。まじめな姿勢で記入してください。

科目： _____

担当講師（教員）： _____

記載日： _____

基準（5段階）	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1

学生自身の振り返り

	項 目	点 数				
1	出席状況は良好であった。	5	4	3	2	1
2	予習・復習など意欲的に学習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
3	自分なりに考えながら授業に参加した。	5	4	3	2	1
4	授業の進度についていくことができた。	5	4	3	2	1
5	この授業を受講して新しい知識・視点・考え方が習得できた。	5	4	3	2	1

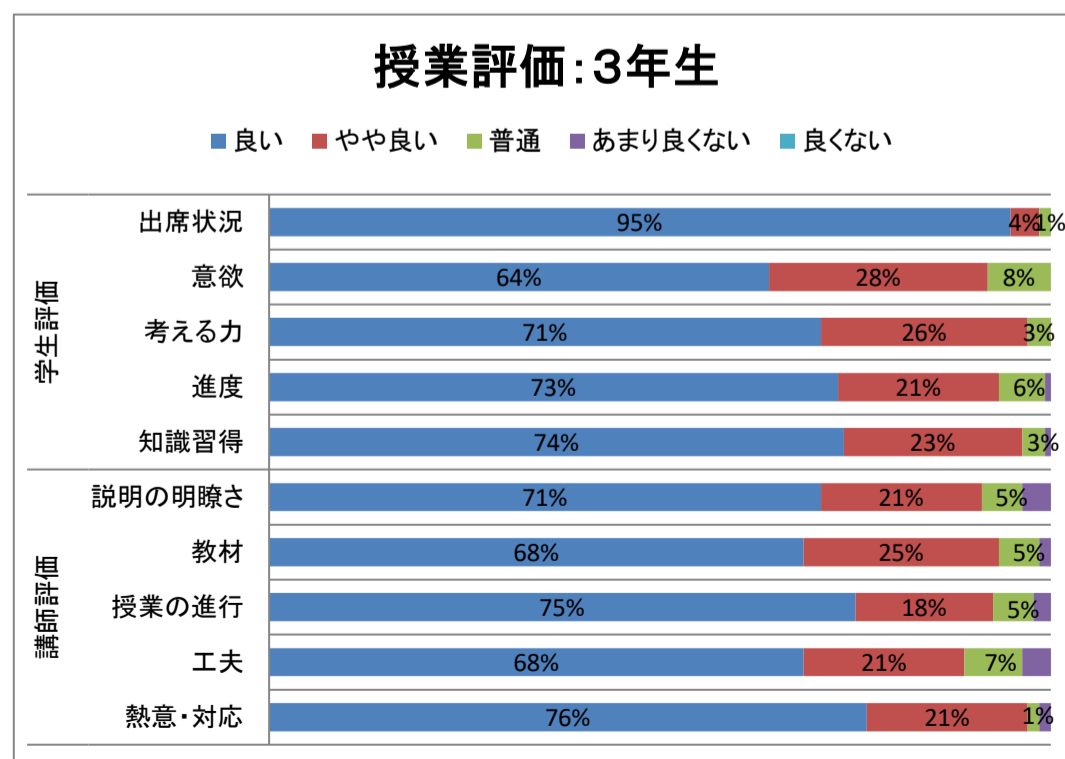
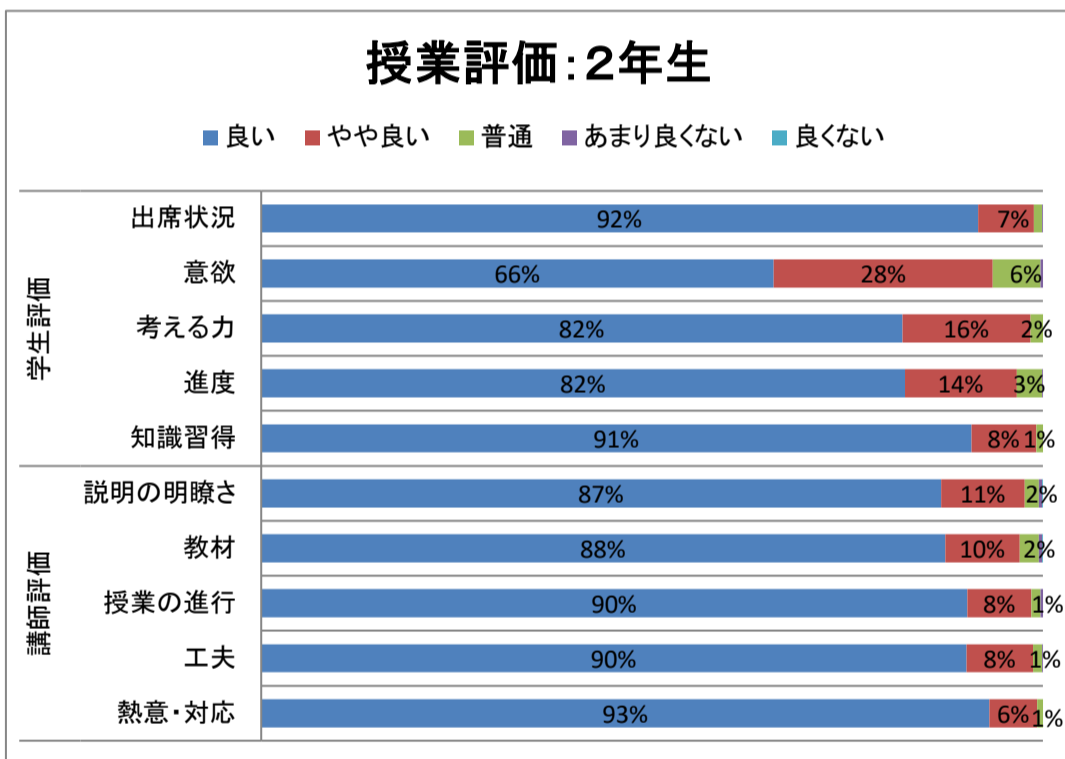
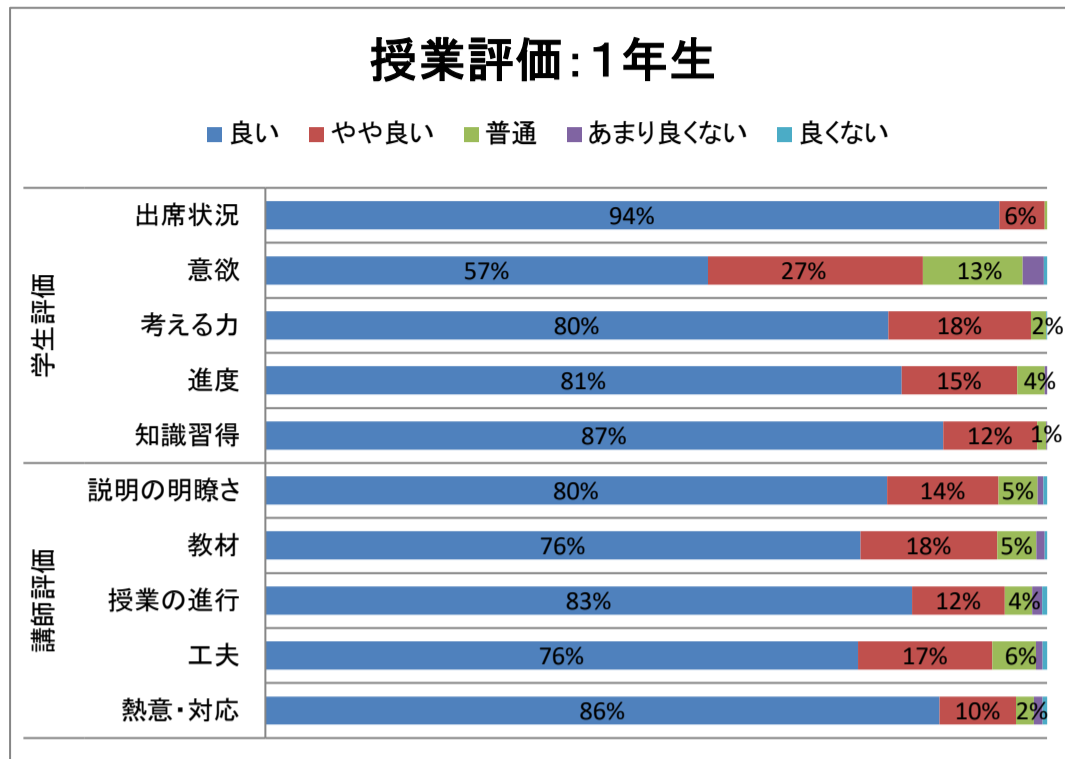
教員に対するアンケート

6	教員の説明は、わかりやすい言葉で、聞きとりやすかった。	5	4	3	2	1
7	教材（プリント・パワーポイント・ビデオ・資料・板書など）は、適切でわかりやすかった。	5	4	3	2	1
8	授業の進行・時間配分は適切であった。	5	4	3	2	1
9	学生の興味・関心を引き出す工夫がなされていた。	5	4	3	2	1
10	教員の対応（熱意・質問の対応・身だしなみなど）は適切であった。	5	4	3	2	1

講義に対する感想や意見など自由に記載してください。

*学生の成績評価とは関係がなく、また学生が不利益を受けることは一切ありません。

令和6年度 授業評価グラフ



令和6年度 臨地実習評価グラフ

